

成人用肺炎球菌ワクチン予防接種の説明書

肺炎球菌感染症とはこんな病気です

肺炎球菌感染症とは、肺炎球菌という細菌によって引き起こされる病気で、気管支炎、肺炎、敗血症などの重い合併症を起こすことがあります。この菌は、主に軌道の分泌物に含まれ、唾液などを通じて感染します。日本人の約3~5%の高齢者では鼻やのどの奥に常在しているとされています。

肺炎球菌ワクチンの効果と副反応について

肺炎球菌には 93 種類の血清型があります。この予防接種で使用するワクチン（23 価肺炎球菌莢膜ポリサッカライドワクチン）は、そのうち 23 種類の血清型に効果があります。

肺炎球菌ワクチンは、肺炎球菌による肺炎などの感染症を予防し、重症化を防ぐことができます。ただし、すべての肺炎を予防できるわけではありません。

主な副反応は、注射部位の疼痛・発赤・腫張、頭痛、腋窩痛、痒感などです。稀に生じる重い副反応としては、アナフィラキシー様症状、血小板減少、ギラン・バレー症候群、蜂巣炎様反応等が報告されています。

過去にこのワクチンの接種を受けたことがある人が同剤を再度接種することによって注射部位の疼痛、紅斑、硬結等の副反応が強く発現すると報告されているため、過去に接種を受けていないか確認が必要です（過去にこのワクチンを接種したことがある人は、定期接種の対象外です）。

接種前の一般的注意

接種にあたっては、医療機関やウェブサイトにある接種説明書をよく読み、接種の必要性や副反応についてよく理解したうえで接種するかどうかを検討してください。気にかかることやわからないことがあれば、予防接種を受ける前に医師や看護師に確認してください。十分に納得できない場合は、接種するのを控えてください。

予診票は、接種する医師にとって、予防接種の可否を決める大切な情報です。接種される方が責任をもって記入してください。

予防接種を受けることができない人

- ①過去にこのワクチンの接種を受けたことがある人
- ②明らかに発熱のある人（一般的に、体温が 37.5℃を超える場合）
- ③重篤な急性疾患にかかっていることが明らかな人
- ④このワクチンの成分によってアナフィラキシーを起こしたことが明らかな人
- ⑤他の予防接種を受けてから、接種間隔の日数を経過していない人
- ⑥その他、医師が不適当な状態と判断した場合

①~⑤に入らなくても、医師が不適当と判断した時は接種出来ません。

予防接種を受ける前に、医師とよく相談しなくてはならない人

- ①心臓病、腎臓病、肝臓病、血液、その他慢性の病気で治療を受けている人
- ②予防接種で、接種後2日以内に発熱の見られた人及び、全身性発疹のアレルギーを疑う症状が見られた人
- ③今までにけいれんを起こした事がある人
- ④過去に免疫不全の診断がなされている人及び、近親者に先天性免疫不全のひとがいる人
- ⑤このワクチンの成分に対しアレルギーを起こす恐れのある人

予防接種を受けた後の注意事項

- ①接種後30分間は、急な副反応が起こることがあります。接種医師とすぐ連絡をとれるようにしておきましょう。
- ②入浴は差し支えありませんが、注射した部位はやさしく洗ってください。
- ③接種当日はいつも通りの生活をしてかまいませんが、激しい運動や大量飲酒は避けましょう。

副反応が起こった場合

予防接種は感染症を防ぐために重要なものですが、接種の後、まれに副反応が起こることがあります。また、予防接種と同時に、ほかの病気がたまたま重なって現れることがあります。予防接種を受けたあと、注射部位のひどい腫れ、高熱、ひきつけなどの症状がある場合は、医師の診察を受けるなど応急処置を受けたあと、母子保健・感染症課（072-960-3805）へ連絡してください。

万が一、定期の予防接種による健康被害が発生した場合には、救済給付を行うための制度（予防接種後健康被害救済制度）がありますのでご相談ください。